



KIFA Plaza

鎌ヶ谷市国際交流協会広報誌

第79号

2013年(平成25年)11月8日
発行：鎌ヶ谷市国際交流協会
〒273-0195 鎌ヶ谷市新鎌ヶ谷2-6-1
TEL 047-445-1141 (内550)
火曜を除く平日9:00~16:00
<http://www.kifa.gr.jp>

若いスタッフが教室をサポート 9月開講の「スマイリーキッズ」が充実

若いアシスタントのサポートに子どもたちも応える——KIFAでは子どもたちに、生きた英語と外国人とのコミュニケーションの大切さ、楽しさを感じて欲しいと「子ども英会話・スマイリーキッズ」を開講しています。今年度は9月スタートになりましたが、若い講師陣の指導とアシスタントに大学生ら若いスタッフが加わり、これまでになく新鮮な教室になっています。それに応えて子どもたちは、楽しそうに授業に通ってきます。

*現役大学生が協力

今期は2学期からのスタートになり、受講回数は来春の3月15日までの20回となっています。受講生はAクラスが1、2年生で10人。Bクラスが3、4、5年生で8人です。

指導講師は市内小中学校のALTイギリス人のクリス・ブラッキン先生、アメリカ人のクリス・ミルズ先生、市外から語学講師のアメリカ人ジェイ・ケーラー先生が交代で指導に当たっています。また講師の都合がつかなくなったりすると、急遽ベテランのガーナ人クリス・エイヤス先生が東京から駆けつけて来てくれます。



ブラッキン先生(左)とケーラー先生(右)の授業風景



今野和代さん



駒崎達也さん



佐久間明莉さん



エイヤス先生



ミルズ先生

*ある日の授業を紹介します

この日の授業はA、Bクラスともアルファベット・ビンゴゲームから始まりです。先生の発音を聞いて子どもたちは、持ちゴマをアルファベットのマスの上に置いていきます。続いて周りにある物の色の英語発音です。子どもたちは先生の発音通りにカラーネームを繰り返します。

その後はカラーマーカーを使ってのぬり絵です。英語で指示されたカラーを白ぬり絵に塗っていきます。始めは何が描かれているか分からなかった白ぬり絵も、指示された色を付けていくと「バタフライ」が現れました。さらに学用品の名前など、先生による発音練習に子どもらは正確に反応していました。

先生方の連携が上手くいっているのは、アシスタントの功績に負うものが大きいです。子どもたちに接する姿勢も新鮮で、授業がとても上手く運んでいる要因となっています。アシスタント陣は大学生やOL、KIFAのボランティアが受

け持っています。

*KIFAロングステイ体験を生かす

大学1年生の駒崎達也さんは鎌ヶ谷高校時代に、KIFA企画のニュージーランドの姉妹都市ワカタネのロングステイ参加体験者です。その後トライデント高校生のホームステイ受け入れもしました。ロングステイ体験を生かして協力してくれます。大学4年生佐久間明莉さんは交流部会員です。部会を超えての協力です。今野和代さんはKIFAの日本語講座を支えているボランティアの一員です。長期間の教室開催にはそれぞれ事情があって講師の確保やボランティアの協力が極めて難しく、協力をして下さる皆さんには本当に感謝しています。

*みんなでクリスマスパーティを楽しむ計画

12月には全講師、受講生、アシスタント、保護者参加でクリスマスパーティを計画しています。



海ほたるでバングラデッシュの家族

港ヨコハマ交流バスツアー

交流部会企画による恒例の交流バスツアー、2013年は秋晴れに恵まれた9月29日（日）、東京湾の真ん中、海ほたるを通して港ヨコハマ地区を中心に、ふれ合いの一日を過ごしました。当日は87人が2台のバスに分かれ7時30分スタート。外国人の参加はバングラデッシュ出身の親子3人と他に2人、アメリカ、ガーナ、中国など8人で、例年より少し寂しい参加数になりました。

●海ほたる——最初の目的地は東京湾に浮かぶ人工のターミナル・海ほたるです。展望デッキを廻り、早速名物の「あさりまん」にパクついている女性もいました。

●キリンビール横浜工場——バスはあっという間に海底トンネルを抜け、「キリン横浜ビアビレッジ」見学です。生産行程レクチャー後の楽しみは「一番搾り」の試飲会です。一人2杯まで制限時間25分でした。

●横浜港山下公園——崎陽軒のランチ弁当で昼食。その後、中華街へ。迷い子になるほどの混雑のなか、1時間ほど買い物散策をしました。

●三溪園で締め——バスは最後の見所・三溪園へ。静寂に満ちた散策のひとつときが、ツアーの締めくくりとなりました。（詳細レポートはHPで）



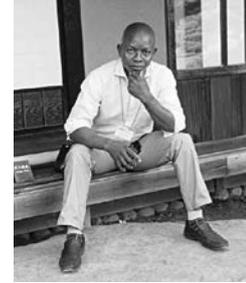
中華街の関帝廟の前で



2号車の皆さん（三溪園で）



キリンビール工場でのレクチャー



日本語講座に通うガーナ人のセイドウ・ヤハヤさん。写真が趣味らしく、高級一眼レフで、日本の風景を撮り続けていました（三溪園で）



1号車の皆さん（三溪園で）



初めてのインド人ゲスト

第2回「英会話サロン」

2013年度「第2回英会話サロン」が9月8日（日）、総合福祉保健センター大会議室で開かれました。3人のゲストスピーカーはそれぞれテーマについて話しました。

（写真左）市内在住アメリカ・ケンタッキー州出身の英語講師Todd Crabtreeさん。テーマは“What's your favorite part of Japanese culture?”（あなたの好きな日本文化は何ですか）です。

私は川端康成とか夏目漱石の日本の文学も好きだし、歴史も好きです。アメリカは歴史が浅いけれど、日本の歴史は長く興味があります。みんなで好きな日本の芸術、文学、歴史などについて話し合えようという提案をしました。

（写真中）インド出身の元教師 Manisha Simoyamaさんのテーマは“Indian Culture”（インドの文化）です。

今日は私の故郷のランチーを中心に皆さんとお話したいと思います。公用語はヒンディー語で第2公用語は英語です。他に12以上の方言があります。約80%が

ベジタリアンです。インドの東と北の主食はコメで西と南では小麦を主食としています。インド人はダンスと歌がとても好きです。Bollywood（ベリーウッド）はHollywood（ハリウッド）より多くの映画が製作されていますと、インド情報を話されました。

（写真右）アメリカ・テキサス州出身、白井の中学校教師 Adam Dornak さんのテーマは“*No Man is an Island: We Live With the Support of Other People*”（人は無人島にいてさえ周りの人の助けによって生きている）です。

アメリカの独立の歴史から受けた強い印象から話し始めました。そして日本で、乗っていた自転車がモーターバイクにぶつけられる交通事故に遭ったとき、周りの人の手厚い助けに驚き感謝したことを例に挙げ、「どんな環境にいても人は一人では生きられない、誰かの助けが無ければ」という諺を選んだ理由について話しました。

参加者は3グループに分かれ、時間ごとに講師が入れ替りその都度、テーマについて話が広がっていきました。

英会話サロン初のインド人ゲストの Manisha さんに参加者も興味津々。ヒンディー語の指導を受けたり、料理を聞いたり、今は廃止されたカースト制度、日課にしているというヨガの正しいやり方やインドの見所、結婚の経緯など質問が飛び交いました。

ヒンディー教徒でもキリスト教の学校で学びました

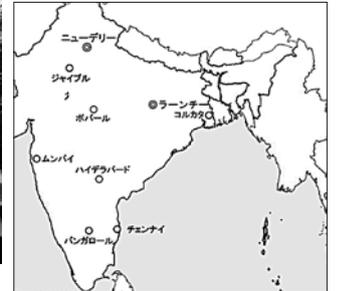


インド・ラーンチー生まれ Manisha Simoyama さん

私はインドの北東部ジャールカンド州の州都ラーンチー(Ranchi)で生まれ育ちました。ラーンチーは首都デリーを始めとし、ムンバイ、カルカッタ、チェンナイ(旧マドラス)の4つの主要都市に次ぐ大都市です。デリーからは東に約1000キロメートル、カルカッタから300キロメートル離れています。



インドの実家



*英語・ヒンディー語は日常語

私が過ごしたラーンチーの町の感じは、新宿というより松戸という雰囲気ですが、山や森が多くきれいです。国内からのツーリストも沢山訪れます。5つの大きな滝も見られます。

気候は夏は平均38℃、冬は平均0℃、雨が多いですが湿度は低く、インドの中では暮らしやすい所です。雨が多いので農業が盛んです。多くの種類の農産物が生産されています。肉食主義のヒンディー教徒が多いインドでは、暮らしにはうってつけの町です。

そして鉄鋼産業が盛んな都市でもあります。鉄鋼は主に国内向けのビル建設材料となります。



アルベルト広場とクリケットスタジアム

*週に2回ヨガの授業があります

義務教育は小学校5年、高校5年の計10年でした。

私はヒンディー教徒ですが、キリスト教のウァーサリン修道院女学校に通ってました。当時は現在と違い男女別学の学校がほとんどでした。2人の兄と2人の姉たちも男女別学の学校へ行きました。

学校は110年くらい前に建てられ、古いですが有名な学校で規律が厳しかったです。授業は入学したときからヒンディー語と英語で行われていました。

日本の学校と一番違う点は、週に2回30分ずつヨガの授業があることです。私は今も毎日ヨガをしています。高校ではインドのクラシック舞踊も習いました。

インドはクリケット、グラウンドホッケー、サッカーなどが盛んですが、私はスポーツはあまり好きでなかったのではありませんでした。好きなお芝居の練習をしていました。

*大学では情報管理の勉強をしました

学校でキリスト教徒の生徒は肉を食べていましたが、私はヒンディー教の肉食主義者なので肉を食べません。しかし牛乳や豆類などの蛋白質はしっかり摂っています。学校の昼食には各自持参していました。

卒業後2年間は、中間スクールで好きな地学の勉強を

しました。大学では情報管理の勉強をしました。また大学では科目によりヒンディー語か英語で授業が行われていました。

大学卒業後小学校に教員として勤め、コンピューターや英語を教えていました。

*カースト制の実質的撤廃を目指して

また世界規模のボランティア組織の中で、ボランティアワークをしていましたが、その組織のネットで日本人の主人と知り合い結婚しました。

これは「カースト制度や生活階級に捉われない結婚をするべきだ」という、私の考えを实践する上にも重要なことで、私たちの結婚が地方紙に載ったほど、センセーショナルな出来事でした。

インドではカースト制は今も廃止されていますが、階級意識がなお根強く残っているのです。

*盗難・ぼったくりにご注意を

生まれ育った住居は10年前に建て替えましたが、4階建てで1階に6部屋ずつある大きな家です。

ラーンチーはインド人が住むには、気候が良く農産物も豊かで環境が良いのですが、旅行者には注意が必要です。景色も良く、建造物など見所も多く、是非にとお勧めしたいのですが、泥棒が多いこと、製品に値札を付けておらず、外国人には値段を釣り上げる、タクシーはとても高いことなど、旅行者にとっては油断のない町です。インドでは、インド人と一緒にいることが一番安心です。(鎌ヶ谷市在住)

2013年KIFAパーティのご案内

今年のテーマは、世界の屋台めぐりとアトラクションです

◎日時と会場は次の通りです。

11月17日（日）1時半（受付開始は1時から）総合福祉保健センター（市役所裏）で3時30分まで開催します。楽しみは屋台めぐりです。

中国、インド、香港、韓国、ドイツの5カ国が出店します。

二胡、インド舞踊、サムルノリなどのアトラクションも楽しめます

<参加費・食べ物券付き> 一般：1,500円 [会員：1,000円]、学生・生徒：700円 [会員：500円]。未就学児は無料。当日券は500円増しになります。

<参加申し込み> 11月8日（金）までに国際交流協会事務局（市役所3階）へ（火曜日を除く平日9時～4時まで）。または、KIFA会員を通じてチケットを購入してください。

◎お友だちを誘い合って、楽しみながら交流しましょう！

日本の夏を楽しむ「にほんご特別学習会」

7月9日（水）の日本語講座の授業は特別授業として、受講生とボランティアの「納涼夏祭り特別学習会」を中央公民館で行いました（写真）。

日本語で自己紹介をしたり、趣味を披露したり、馬込沢自治会の協力による太鼓の練習や盆踊り、ゲームに興じたりと楽しい夕べを過ごしました。この様子は8月9日発行の「地域新聞」1面にも掲載されました。



日本語講座には、現在も8か国の外国人が通っていて、ボランティアはより良い指導ができるように、研修会を重ね研鑽しています。

*日本語を学習したい外国人を是非ご紹介ください。

お知らせ

◆外国文化に親しむサロン

日時：1月19日（日）午後1時20分～3時40分
日本の常識・世界の非常識を5か国の人達と語ろう
（外国人が日本語で話します）

◆世界を知る会

内容：ベトナムの風
ベトナムの文化と音楽にふれてみませんか
日時：2月2日（日）午後2時～4時
会場：鎌ケ谷市総合福祉保健センター6階

◆交流カフェ・外国家庭料理講習会

日時：2月16日（日）午前9時～午後4時（予定）
会場：東部公民館
内容：中南米料理など検討中
定員：24人

◆日本語講座第3期

会期：12月11日（水）から12回
時間：夜7時20分～8時50分

「多文化共生推進連絡協議会」が発足

鎌ケ谷市の基本方針「個人が尊重しあう多様な市民交流」社会をめざし、鎌ケ谷市多文化共生推進連絡協議会（以下協議会）が10月2日発足しました。

同協議会はKIFAをはじめ、市内の国際交流関係団体が連携し、国籍や民族などの異なる市民が、文化の違いを認め合い、鎌ケ谷市民として住みよい街、多文化共生社会の実現に向け協力し合うことを目的としています。構成団体は市の声掛けにより鎌ケ谷市国際交流協会（KIFA）、鎌ケ谷国際文化交流会、鎌ケ谷日本語サークル、子どもワールドクラブの4団体です。

協議会の副会長にKIFA会長の長南勇氏、監事に同会計の川端正征氏が就き、会長には太田尻はる子氏（鎌ケ谷国際文化交流会）が就任しました。

なお多文化共生推進センターは初富交差点近くに新築中の「きらり鎌ケ谷市民会館」（平成26年4月オープン予定）内です。きらり市民会館には、きらりホール、中央公民館などが併設される予定です。

総務省は地域の国際化の推進策として、多文化共生を推し進めています。2013年9月8日、国際オリンピック委員会（IOC）総会は、2020年オリンピック・パラリンピックの開催地を東京に決定しました。鎌ケ谷市は成田空港と羽田空港の間に位置し、2大空港をつなぐ街です。2020年には、鎌ケ谷市の国際化とKIFAはどのように進化しているのでしょうか？

滝川クリステルさんのスピーチで話題になった「おもてなし」。もてなしとは「ものを持って成し遂げる」が語源となっています。国際交流と多文化共生、言葉は違いますが、共に「理解を持って成し遂げる」のが基本だと思っています。国際交流から多文化共生と言葉の表現は変化しても、源流に根差すものは、互いの文化的違いを理解し認め合うことです。

編集後記

多文化共生という言葉が世の中に広がる以前から、KIFAでは、異文化を知り、異文化に触れることが活動の基本になっています。2020年、鎌ケ谷市の国際化とKIFA活動が充実し、生まれて初めて見る東京オリンピック・パラリンピックを、多くの外国人市民と共に体感できる年になるといいなと思っています。（M.H）